

県中農林 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現するふくしま

第41号

令和7年12月23日

○特集 P1

○頑張る農林業者さん P16

○農林関係の動き P2～15

○お知らせ P16

お問い合わせはこちら

【編集・発行】

福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒963-8540

郡山市麓山一丁目1番1号

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a>

TEL 024-935-1510 FAX 024-935-1314

特集

福島県農業賞受賞者をご紹介します

【企画部】

9月9日（火）に、杉妻会館（福島市）において、第66回福島県農業賞の表彰式が開催され、今年度の農業賞（農業十傑）では、農業経営改善部門6件、集団活動部門（農村女性活動の部）1件、新規就農者部門1件、復興・創生特別賞2件が受賞しました。県中管内からは、郡山市の有限会社ハッピーファーム、浅川町の^{こむろかつひろ}小室勝弘さんが農業経営改善部門（※）を受賞され、知事から表彰状が手渡されました。

有限会社ハッピーファームは、原料にこだわったキノコ栽培を手掛け、東京電力福島第1原発事故直後風評被害により直後は売り上げが3分の1に減少しましたが、自主的に測定した培地や生産物のモニタリングの結果をホームページで公開し安全性を訴え続けました。

^{こむろかつひろ}小室勝弘さんは、水田の大規模経営を行っており、高齢で作付けが困難な農家の水田も請け負い個人経営では町内最大規模となっています。また、漢方生薬などを使ったコシヒカリの栽培を手掛けています。コメの色彩選別機を町内で最も早く導入し一等米比率100%と高い品質を維持しています。

今回の受賞を機に、今後の御活躍が大いに期待されます。

※ 経営内容が計画的であり、生産性が高く経営の安定性・発展性が見込まれ、特に農業経営の改善が顕著である個別経営体（法人を除く）及び農業法人が対象になります。



【左から^{やすだじゅんいち}安田潤 代表取締役社長、内堀知事、^{やすだきょうこ}安田京子 取締役役】



【左から^{こむろかつひろ}小室勝弘氏、内堀知事】

きゅうり基礎力アップ研修会を開催しています

【須賀川農業普及所】

今年度も栽培経験が浅い生産者を対象として、須賀川農業普及所主催で「きゅうり基礎力アップ研修会」を開催しています。

今年度は7回の開催を予定し、4月に開催した第1、2回目はきゅうりの基本的な栽培管理や農作業安全等について、6、7月に開催した第3、4回目は管内のベテラン生産者ほ場にて実際の作業の様子や管理の方法などを研修しました。最盛期のほ場に訪問し自身のきゅうりと見比べたことで、不足する点や工夫する点を学ぶことができました。今後は次年度の生産安定に向けて、土作りに関する研修や今年度の反省検討会を開催する予定です。



【農短大での第2回研修会（4/17）】



【ベテラン生産者ほ場での第4回研修会（7/24）】

郡山市立西田学園の児童が田植え・稲刈りをしました

【農村整備部】

郡山市立西田学園^{にしだ}5学年児童45名が、「ふくしまの農育」推進事業による体験学習で5月14日（火）に田植え、10月6日（月）に稲刈りを行いました。

児童たちは、田んぼを維持管理している多面的活動組織の農家の方々から指導をいただき、5月に田植えを行い、10月に自分たちで植えた稲を苦戦しながらも上手に稲刈りを行っていました。「稲を刈るのは思ったよりも硬くて意外にも難しかったけれど、自分で刈ったお米をおいしく食べたいです。」と農業の大切さを感じている様子でした。今後の活動では、収穫祭を予定しています。



【田植えの様子】



【刈った稲を掛ける様子】

田村市都路地区でさつまいもの新規栽培者を募集しています【田村農業普及所】

田村市では、生産者の所得向上と震災後の^{みやこじ}都路地区の営農再開を進める品目として「さつまいも」を選定し、振興を図っています。

令和7年度は、田村市主催で^{みやこじ}都路地区のさつまいも生産者のほ場において、新規栽培者や栽培に興味がある生産者を集めた現地見学会を3回開催しました。

田村農業普及所からは、5月26日（月）の1回目は定植の仕方について、8月18日（月）の2回目は病虫害対策について、10月4日（土）に行われた3回目は収穫の仕方について講義を行い、出席者は真剣な眼差しで説明を聞き、質問や相互の意見交換を行いました。

さつまいも栽培に興味ある方は、田村農業普及所にご相談ください。



【さつまいも栽培について説明する
担当普及員】

「ひとつ、ひとつ、実現する郡山農業塾」を開催しています【農業振興普及部】

農業振興普及部では、担い手の確保・育成に向けた取組として、新規就農者や就農予定者等を対象に、農業に関する基礎的な知識や技術を習得する研修会「郡山農業塾」を開催しています。

5月29日（木）の第1回郡山農業塾では、郡山市^{みほと}三穂田町の^{とくのうか}篤農家（※）2名のほ場を視察し、水稻・きゅうりの栽培概要や管理のポイントを学びました。第2～4回目は農業経営・土づくりと病虫害防除・経営計画をテーマに開催します。ご興味ある方は是非お問い合わせください。

（電話：024-935-1321）



【きゅうりほ場視察の様子】

※ ^{とくのうか}篤農家とは、農業に非常に熱心で、研究熱心、先進的な技術を取り入れ、地域や農業全体の発展に貢献する模範的な農家を指します。

松くい虫防除の薬剤散布を実施しました

【森林林業部】

松くい虫被害防止のため、6月3日（火）に空中散布、6月17日（火）、19日（木）に地上散布が実施されました。使用薬剤は安全性が確認されたもので、周辺の農産物や生活環境にも配慮しています。松くい虫被害は、マツ材線虫が木の内部で増殖し、水分を運ぶ組織を詰まらせて枯らすことに加え、その線虫を運ぶマツノマダラカミキリが松を食害することで拡大します。このため、成虫が羽化する前に防除を行っています。引き続きご理解とご協力をお願いします。



【須賀川市牡丹園での散布】



【須賀川市^{ふじぬまこ}藤沼湖周辺での散布状況】

環境にやさしい農業に取り組む！「みどり認定」を受けてみませんか

【農業振興普及部】

6月16日（月）に郡山市^{ひわだ}日和田町で水稻を生産している有限会社アグリサービスあさか野へ、11月11日（火）には郡山市安原町でトマトを生産している^{いけがみしんいちろう}池上慎一郎氏へ、県中農林事務所廣田所長より「みどり認定証」が交付されました。みどり認定は、環境にやさしい農業の取組に関する認定制度で、税制面の支援や国の補助事業の優先選択を受けられる場合があります。現在、県中のみどり認定者は218名です。詳しくは農業振興普及部までお問い合わせください。



【会社（（有）アグリサービスあさか野）で交付
（左から廣田所長、鈴木一弘氏、志賀部長）】



【県中農林事務所所長室で交付
（左から廣田所長、池上慎一郎氏、志賀部長）】

当事務所長も参加！JA トップセールスを行いました。

【企画部】

今年も、当事務所管内の JA 夢みなみと JA 福島さくらは、各 JA 産の農産物の販売促進と販路拡大を推進するため、組合長や管内の市町村長によるトップセールスを行いました。

JA 夢みなみは 6 月 20 日（金）、東京都中央卸売市場^{おおた}大田市場において、丸山重一^{まるやましげかず}組合長をはじめ、岩瀬^{いわせ}・石川^{いしかわ}・西白河^{にししらかわ}地方の市町村長ほか関係機関の約 35 名が参加し、夏秋野菜等の PR が行われました。JA 夢みなみ組合長、須賀川市長の挨拶の後、キュウリやトマトなどの夏野菜を市場内の卸売の方々に配布し、野菜のおいしさを PR しました。

JA 福島さくらは 7 月 29 日（火）、東京都中央卸売市場^{よとばし}淀橋市場において、志賀博之^{しがひろゆき}組合長をはじめ、郡山市^{たむら}・田村^{ふたば}地方・いわき市・双葉^{ふたば}地方の市町村長ほか関係機関・団体と県内、京浜地区^{けいひん}の卸売業者など約 50 名が参加し、夏秋野菜等の PR が行われました。市場内の仲卸の方々にピーマン、ミニトマト等を配布しました。

主市場での販売促進 PR 活動を通し、野菜や果物のおいしさに加えて、産地の熱意も消費地にしっかりと伝えました。



【野菜配布の様子】

三春町ふるさと納税返礼品ブルーベリー出荷式が開催されました

【田村農業普及所】

6 月 25 日（水）、三春町「ふるさと納税」の返礼品であるブルーベリーの出荷セレモニーが開催されました。「三春ブルーベリー倶楽部」員が生産するブルーベリーは、例年、返礼品のメニューとして選定されています。

当日は、倶楽部員に対し、伊藤 朗^{いとうあきら} 副町長から協力の依頼と御礼が伝達されたとともに、各員が持ち寄った収穫したてのブルーベリーの生果実 30 箱が運送業者に手渡され、無事、第 1 便が出荷されました。今後は年間を通じて、生果実と冷凍果実の 2 種類を納税者の方へ発送していくことになります。



【ふるさと納税返礼品ブルーベリー出荷式の様子】

岩瀬きゅうりならではプランワーキンググループを開催しました

【須賀川農業普及所】

須賀川農業普及所主催で「岩瀬きゅうりならではプランワーキンググループ」を6月26日（木）JA夢みなみきゅうりん館会議室で開催しました。

生産者代表、JA、全農、市町村、県等25名が参集し、岩瀬きゅうりの生産振興について今年度の計画や役割分担について検討しました。当管内のきゅうりの新規栽培者は毎年10名程度確保されているものの、高齢化により栽培面積が減少しており、市場からは生産量の維持が求められています。

このワーキンググループを通じて産地の生産安定に向けて関係機関が連携して、産地の生産振興を図ってまいります。



【ワーキンググループの様子】



第9回JA福島さくら和牛育成管理共進会が開催されました【田村農業普及所】

6月28日（土）、田村市常葉町のJA福島さくら畜産センターにて、「第9回JA福島さくら和牛育成管理共進会」が開催されました。

繁殖雌牛の月齢や繁殖成績などの出品条件による5区分に、田村管内からは19頭、全体で29頭が出品されました。審査の結果、体型や資質、品位等が高く評価された、田村管内の9頭を含む13頭が優等賞に選出されました。

優等賞を獲得した雌牛は、7月26日（土）に福島県家畜市場で開催された「JAグループ福島肉用牛共進会」にJA福島さくらの代表として出品されました。



【審査の様子】

6月30日（金）、いちご育苗時の炭疽病対策のため、研修会を開催しました。ここ数年高温等による影響で、育苗期から炭疽病が発生し、健全な苗の確保に苦慮しています。

管内生産者14名が参加、県農業総合センター作物保護科の堀越科長より病気の特徴や予防について学び、須賀川市の有限会社横田農園の現地で研修を行いました。参加した生産者からは、「病気についてより詳しく学べた。横田氏の取組も取り入れたい」と炭疽病予防について理解を深めることができました。



【スライドを使った講習】



【横田農園にて現地研修】

県産花きを使用した花育活動を実施しました

【農業振興普及部】

県中農林事務所では、福島県産花きの魅力の周知、利用促進を図るため、花き関係者による「県中地方フラワーネットワーク」を設立し、様々な取組を行っています。

活動の一環として7月1日（火）、郡山市立高瀬小学校の6年生を対象に花育活動を実施しました。児童達は県産花きについてクイズ形式で学んだ後、トルコギキョウやカスミソウなどの県産花きを使用した、フラワーアレンジメントを体験しました。体験後のアンケートでは「色々な花があることを知った」「前より花が好きになった」などの感想が寄せられ、児童が花きの魅力を身近に感じる機会となりました。



【フラワーアレンジメント体験の様子】

県産花きを使用した花育活動を実施しました

【須賀川農業普及所】

7月15日（火）、須賀川市立長沼東小学校の5、6年生23名を対象に、フラワーアレンジメント体験教室を開催しました。

花育とは、花と緑に親しみ、育てる機会を提供することで、子どもたちのやさしさや美しさ等を感じる気持ちを育む活動のことです。

当日は、須賀川市「フラワースタジオ POCO A POCO」
の中村良美氏^{なかむらよしみ}を講師に、カスミソウやトルコギキョウなど県内で生産された5種類の花を使い、子供たちは思い思いに色鮮やかなの花のアレンジメントを楽しみました。



【真剣な表情で取り組む子供達】

県中地方グリーン・ツーリズムネットワーク視察研修会 & 石川地方グリーン・ツーリズムモニターツアーを開催しました

【企画部】

県中農林事務所では、グリーン・ツーリズムの推進を図るため、様々な取り組みを行っております。

7月17日（木）には、県中地方グリーン・ツーリズムネットワーク主催の視察研修会を開催しました。参加者15名が、しらかわ広域連携グリーン・ツーリズム推進協議会の鈴木正美会長^{すずきまさみ}による講話の後、白河ブルーベリーヒル菅原修一^{すがわらしゅういち}・信子^{のぶこ}ご夫妻による収穫体験・ジャムづくり体験を行いました。開催後のアンケートでは、参加者から、とても勉強になった、また参加したいなど満足度の高い評価を得られました。



【7/17 ジャムづくりの様子】

10月5日（日）玉川村の森の駅^{yodge}にて、石川地方グリーン・ツーリズム推進協議会主催の「石川地方グリーン・ツーリズムモニターツアー」を開催しました。ツアーには県内各地から様々な年代の14名が参加しました。

SOMETTOKORO^{そめつとくろ}の吉田チェミ氏^{よしだちみ}を講師に招き、さるなしの枝を使用した草木染めにてオリジナルハンカチを作成した後、さるなし生産者の大和田宏氏^{おおわだひろし}の農場へ移動し、さるなし収穫を体験しました。参加者は、玉川村ならではの体験を満喫している様子でした。



【10/5 集合写真】

シュレッダーブレード（刈払い刃）講習会を開催しました【須賀川農業普及所】

住民に向けてシュレッダーブレード講習会を開催しました。シュレッダーブレードは従来の刈払い機の刃と比べ、背の高い草や堅い雑草などを効率よく切断・粉碎に特化した刃です。野生動物の生息環境管理を省力的に行うことができますが、作業中の危険性が高いことから講習会を開催しました。

今回は5名が参加、作業前にしっかりと注意事項を確認し実習を行いました。11月に行う侵入防止柵の設置に向けてシュレッダーブレードを活用した鳥獣被害防止対策を行っていきます。



【作業前に注意事項を確認】



【シュレッダーブレードでの実習】

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン 農林水産物 PR（第1回、第2回）を開催しました

【企画部】

県産農林水産物の消費拡大及び地産地消を推進するため、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

第1回は、7月22日（火）～25日（金）にエスパル郡山にて県産の花を使用したフラワーアレンジメントの展示等を、そして7月23日（水）には同会場にてアンケートに回答いただいた先着200名の方に、青春GAP米と6次化商品の試食をプレゼントしました。



【第1回 フラワーアレンジメント】

第2回は、9月20日（土）に、空の日フェスティバル（会場：福島空港）にて、アンケートに回答いただいた先着200名の方に、日本なしと6次化商品の試食をプレゼントしました。

いずれの会場でも、アンケートの結果、県産農産物を週1回以上は購入している方が6割以上、県産農産物のイメージについてもおいしい、新鮮と回答する方が多く、県産農産物を肯定に捉えていることが分かりました。



【第2回 会場の様子】

福島県治山林道研究発表会が開催されました

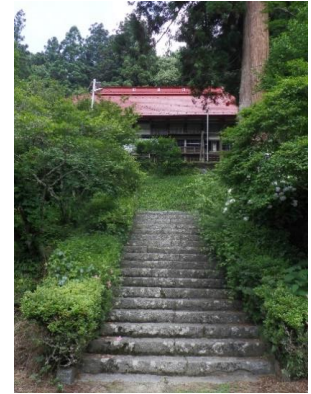
【森林林業部】

7月23日（水）、林業研究センターにて、治山林道研究発表会が開催されました。この発表会は、県内の様々な治山林道に関する取組事例等について情報交換する場となっています。

県中農林事務所からは、社寺名所または旧跡に美しさや趣を添える為に必要な森林として指定する『風致保安林』の現況について発表しました。

調査の結果、施業種が択伐の風致保安林においては地元の方々や県の治山事業によって適切に管理されていた一方、禁伐の箇所においては手入れが行き届いていない状況が判明しました。

このことから、風致保安林の禁伐林については、日本独自の歴史に照らして施業種を択伐や皆伐に変更し、手入れをする必要があるものと考察し発表を行いました。



【東堂山（小野町）の風致保安林】

令和7年度原子力被災12市町村の営農再開に係る田村市現地チーム員会議を開催しました

【田村農業普及所】

8月28日（木）、田村市の営農再開に向けた具体的な協議を行うため、地域の関係機関を参集した「田村市現地チーム員会議」を開催しました。

今年度は、昨年度までの経過をふまえ、都路地区における「さつまいも」と「畜産」の振興に焦点を絞って検討を進めるとともに、JA全農福島畜産部に協力を仰ぎ、現在、田村市都路町に建設中の復興農場「全農美土里ファーム」の現地視察を行い、当該地区の営農再開と地域農業の再生・発展に向けた情報共有と、関係機関の連携を強化しました。



【田村市の営農再開に係る協議】



【復興農場（建設中）の現地視察審査の様子】

当部では、現在、小さい区画の田んぼを大きくして維持管理しやすい道路や水路の設置を行うほ場整備事業を17地区実施しています。ほ場整備工事が、地盤を大きく移動するため、地下水や周辺地形の影響を受け、工事後に湧水や法面崩れ、地盤沈下など様々な現象が現れる場合があります。

その状態では耕作が困難となるため、通称「補完工事」といわれる対策工事を行います。

ただ、場所や状況によって現れる現象は異なることから、それぞれに合わせた対策工事を行わなければならない、知識や経験、技術を要するため、部内の担当者を招集し、数カ所の現場を見学、意見交換を行うことにより、より良い対策方法を導くための研修会を行いました。

研修会は8月8日（金）、9月2日（火）と3日（水）の3日間で延べ19名が参加し、日頃の疑問やこれまでの経験などの情報交換をしました。

今後も同様の研修会を開催し、技術者同士で研鑽に努め、得た知識を各現場で活用し、農家さんが不具合なく営農できるよう整備して参ります。



ゆうすいしよりあんきょう
【湧水処理暗渠工】



なんじゃくのりめん
【軟弱法面状況確認】



たてあんきょう
【縦暗渠工】



せきれきじょきょう
【石礫除去工】

岩瀬農業高等学校フレッシュ農業講座を開催しました

【須賀川農業普及所】

須賀川農業普及所は岩瀬農業高等学校の2年生を対象に、今年度もフレッシュ農業講座を開催しました。園芸生産科対象の1回目は9月3日（水）は天栄村の長ネギ、花きの生産ほ場を、生物生産科対象の2回目は10月6日（金）は鏡石町の水稲生産現場をそれぞれ研修しました。生産者から栽培技術や経営の工夫、就農までの経緯などを直接聞き、現場でしか得られない貴重な学びを得ました。生徒からは「生産者と話すことで農業をより実感することができた」との声も聞かれ、農業の魅力を再認識し、就農への意欲が一層高まる有意義な機会となりました。



【生徒による花の調整作業】



【水稲ほ場での研修】

小野高等学校フレッシュ農業講座を開催しました

【田村農業普及所】

9月4日（木）と8日（月）に、県立小野高校^{おの}の2年生10名を対象にフレッシュ農業講座を開催しました。

田村地域の特徴的な農業を学びたいという高校の要望を受け、4日には、田村地域の農業と田村市のエゴマ栽培について講義し、エゴマの試食体験を行いました。8日には、田村市エゴマ振興協議会のエゴマほ場と搾油所^{さくゆ}を見学し、実際の生産現場に触れながら生産者と様々な意見交換を行いました。さらに、JA福島さくらの農産物直売所ふぁせるたむらを見学し、店長より出荷の仕組みなどについて説明していただきました。生徒たちからは、搾りたてのエゴマ油の味や直売所の仕組みに触れ、大変興味を持った様子が伺えました。



【エゴマほ場見学の様子】



【ふぁせるたむら見学の様子】

経営体育成基盤整備事業 三穂田中部地区が県優良工事を受賞しました！ 【農村整備部】

令和7年度福島県優良建設工事表彰式が9月10日（水）に行われ、^{み ほ た ちゅうぶ}三穂田中部地区0601工事がほ場整備部門で優良工事を受賞しました。

^{み ほ た ちゅうぶ}三穂田中部地区は、生産基盤である農地を大区画化、汎用化を図るほ場整備工事であり、令和5年度から整備を実施しています。

本工事は施工区域が点在しており、かつ施工区域内が通学路となっていることから、施工中の安全確保が求められました。このため、危険予知マップの作成や登下校時間帯を避けて重機、資材の搬入を行うなど、限られた工期の中で優れた安全対策を実施しました。



【三穂田中部地区工事完了の様子】



【整備後の営農（代掻き）の様子】

ピーマンで環境に優しく、省力的な栽培を目指す勉強会を開催しました 【田村農業普及所】

9月11日（木）、JA、ピーマン専門部会青年部、県、市町、全農が一体となって取り組む「たむら地区ピーマン専門部会グリーンなサポート事業協議会」主催の勉強会が開催されました。

今年度は天敵農薬の導入や環境測定装置を活用した栽培管理の実証に取り組み、勉強会ではその中間報告を行いました。天敵を導入した圃場では害虫の発生が抑えられたことが確認され、環境測定装置については、得られたデータをもとに、換気やかん水、追肥等の管理に活用できました。今後は12月に最終結果の報告会を行い、実証内容をまとめたマニュアルを公表する予定です。



【勉強会の様子】

9月11日（木）、福島県立岩瀬農業高等学校（鏡石町）の環境工学科2年生13名を対象に、広葉樹の特性や利活用事例を学ぶ見学会を実施しました。

一箇所目は、広葉樹林再生事業(鏡石町)の現場です。県中地域では、放射性物質の影響により、きのこ原木が出荷できない状況が未だ続いていることから、原木林の更新に必要な伐採等を行い、併せて新たに発生する^{ほうがし}萌芽枝などの放射性物質調査を行っています。

二箇所目は平田村にある木質バイオマス発電所です。原子力発電所の事故を契機としてエネルギー施策の転換が進められており、その燃料として再生可能で熱効率が高い広葉樹の需要が高まっています。

三箇所目は循環型農業（SDGs）を実践している農園（郡山市）です。広葉樹のおが粉をなめこの菌床として利用した後、廃菌床を農地に肥料として活用し枝豆等を栽培しています。

生徒の皆さんからは、「環境工学からの視点で林業を見つめ直すきっかけになった」、「身近にある森林の活用方法を改めて実感できた」などの感想がありました。



【広葉樹林再生事業
切り株から萌芽状況】



【木質バイオマス発電所
燃料用チップに加工された広葉樹】

★福島県農林水産部公式 YouTube チャンネル『1400 のネタばらし』で「高校生林業現場見学会」の様子をご覧ください！



＼動画はこちら／



タイトル「高校生、林業と建築のつながりを知る」
郡山北工業高等学校の建築科1年生が、
林業と木造建築の関わりを現場で学びました。
その様子を動画で紹介しています。

（県中農林事務所森林林業部作成）

◆福島県農林水産部公式 YouTube チャンネル『1400 のネタばらし』とは？

約1400人の農林水産部職員一人一人が、県産農林水産物の魅力などを自由な発想で企画・取材・撮影・編集した動画を掲載しています。ぜひご覧ください！

たむらのお試し就農体験・現地見学会を開催しました

【田村農業普及所】

市町、JA、県が一体となった就農支援組織「田村地域就農支援プロジェクト」主催で、お試し就農体験（9月12日（金）～13日（土）、10月17日（金）～18日（土））及び現地見学会（9月26日（金）～27日（土））が開催されました。

同イベントでは、管内の農業者の協力のもと、ピーマンやネギ、キクの収穫や出荷調製の体験、ほ場や機械等の見学を行いました。

県内外から計4名が参加し、参加者からは、就農をより具体的にイメージできたという感想をいただきました。そのうち2名は、来年以降に田村地域での就農を考えており、新規就農者の確保にも結びついています。



【お試し就農体験の様子】



【現地見学会の様子】

令和7年度県中地方特定家畜伝染病防疫演習を開催しました【農業振興普及部】

大陸から渡り鳥が飛来するシーズンとなり、養鶏場における高病原性鳥インフルエンザ発生に備えるため、9月30日（火）、令和7年度県中地方特定家畜伝染病防疫演習を開催し、警察関係、各市町村、関係団体、県関係機関等の職員約110名が参加しました。

演習では、①集合センターにおける演習、②農場隣接テント・発生農場における演習、③消毒ポイントの演習を参加者へ実際に体験してもらい、有事の際の防疫対策を確認しました。

今回の演習をふまえ、発生時に迅速かつ的確な防疫対策を実施できる体制を強化してまいります。



【集合センターを想定した作業演習】



【発生農場を想定した作業演習】

頑張る農林業者さん ★ 郡山市 鈴木隆広さん

郡山市^{こなん}湖南町の鈴木隆広さんは、市園芸振興センターの「こおりやま園芸カレッジ」における一年間の研修を経て、今年の4月からアスパラガスと水稻の経営を営まれています。

就農前は県内の製造メーカーで働いており、部品の工程設計や製造工程の自動化などを担当していました。この経験から農作業の自動化に興味を持つようになり、収穫ロボットの実装が進むアスパラガスに目を付け、新規部門として取り組む決意をしたそうです。機械収穫の前提とな

る^{わくいたしきたかうね}枠板式高畝栽培を研修中に習得し、今年は手始めに10aを作付けて、生育も順調です。

実は鈴木さんは、ボート競技の元国体選手で、現在も湖南高校ボート部OBとして、農作業の合間を見ても、後輩の育成に力を入れているとのこと。就農一年目から多方面に活躍される鈴木さんですが、「食は人にとって、なくてはならない大事なものと、農業への想いを語ってくれました。



【鈴木隆広さん】

おらせ

県中地域グリーンツーリズムネットワーク交流会を開催いたします！

【企画部】

令和8年1月30日（金）13:20～15:40に、郡山合同庁舎仮設庁舎2階の第一会議室において「県中地域グリーンツーリズムネットワーク交流会」を開催いたします。

交流会では、(一財)都市農山漁村交流活性化機構^{はながきのりゆき}業務第1部グリーンツーリズム長の花垣紀之氏を講師に招き、具体的事例を参考に、効果的な情報発信について講演いたします。講演だけの参加も大歓迎ですので、興味のある方はぜひご参加ください。

参加希望の方は、県中農林事務所HPに掲載されている申込書に必要事項を記入の上、メールかFAXでお申し込みください。

問い合わせ先：024-935-1510

地域の魅力の情報発信について学べます！

令和8年
1月30日（金）
13:20～15:40
会場：郡山合同庁舎
第一会議室

県中地方グリーン・ツーリズムネットワーク交流会

グリーン・ツーリズムの具体的事例を参考に、効果的な情報発信について講演いたします。講演だけの参加も大歓迎です。
グリーンツーリズムや情報発信にご興味のある方は、ぜひご参加ください。（講演だけの参加も大歓迎）

講演	交流会内容
「受け手に響く地域の魅力発信方法」 一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 業務第1部グリーンツーリズム長 花垣 紀之 氏	13:25～14:20 【講演】 受け手に響く地域の魅力発信方法
	14:20～14:55 【事例発表】 田村市グリーン・ツーリズム連絡協議会
	14:55～15:35 【活動発表等】 県中管内各協議会の今年度の取組
	1月14日（水）までに裏面の申込書に必要事項を記入の上お申込みください

地域活性化と持続可能な交流の実現をリードする専門家で、「関係人口創出・拡大」により受け入れ側の住民が元気になる「社会的な活性化」、対価を稼げる「経済的な活性化」が期待できるとして各種活動を行っている。（内閣府 地方創生HPより）

【交流会開催のチラシ】